

県立高校の在り方に関する 地区別情報交換会

令和7年11月17日

群馬県教育委員会

1. 社会の変化

- ・ 複雑かつ予測困難な課題を抱えた現代

➤ 高校教育の果たす役割は大きい

3. 生徒数の減少

- ・ 継続的な中学校卒業者の減少

➤ 学校の活力維持や特色化が必要

2. 生徒の多様化

- ・ 生徒の学習ニーズ、興味・関心、進路希望等の多様化

➤ 多様な生徒受入の体制づくりが必要

4. 教育のデジタル化

- ・ 社会や生活様式が大きく変容し、デジタル化が加速

➤ デジタルを活用した、個別最適な学びを推進

高校教育改革（県立高校の在り方の検討）が必要

既存の取組

- ◆ スーパーサイエンス
ハイスクール
- ◆ 非認知能力育成
- ◆ DXハイスクール など

+

在り方検討



すべての子どもに
公平で質の高い教育

01 地区別情報交換会

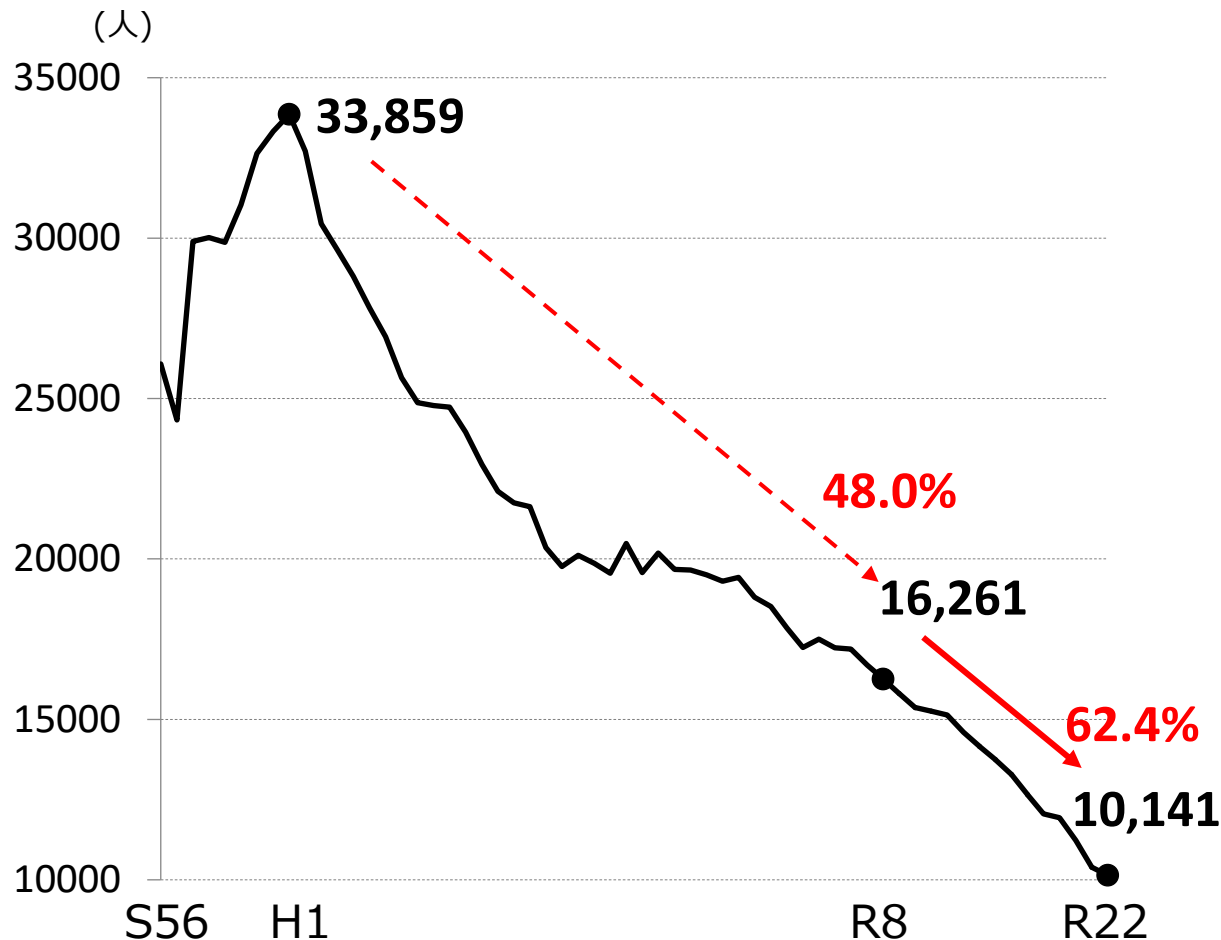
現状・課題等の情報共有



02 地区別検討会

地区ごとにゼロベースで
幅広く在り方を検討

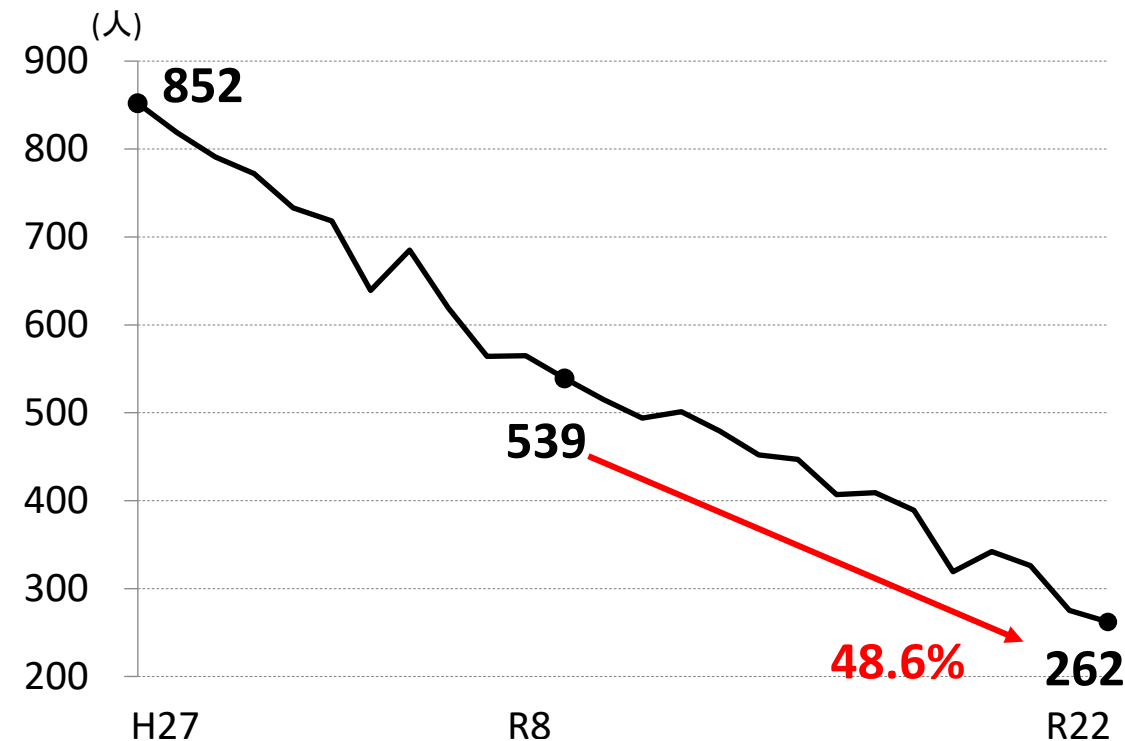
群馬県



・今後、数年間の見込み

R8→R9 : -455 , R9→R10 : -436 , R10→R11 : -114

沼田市・利根郡



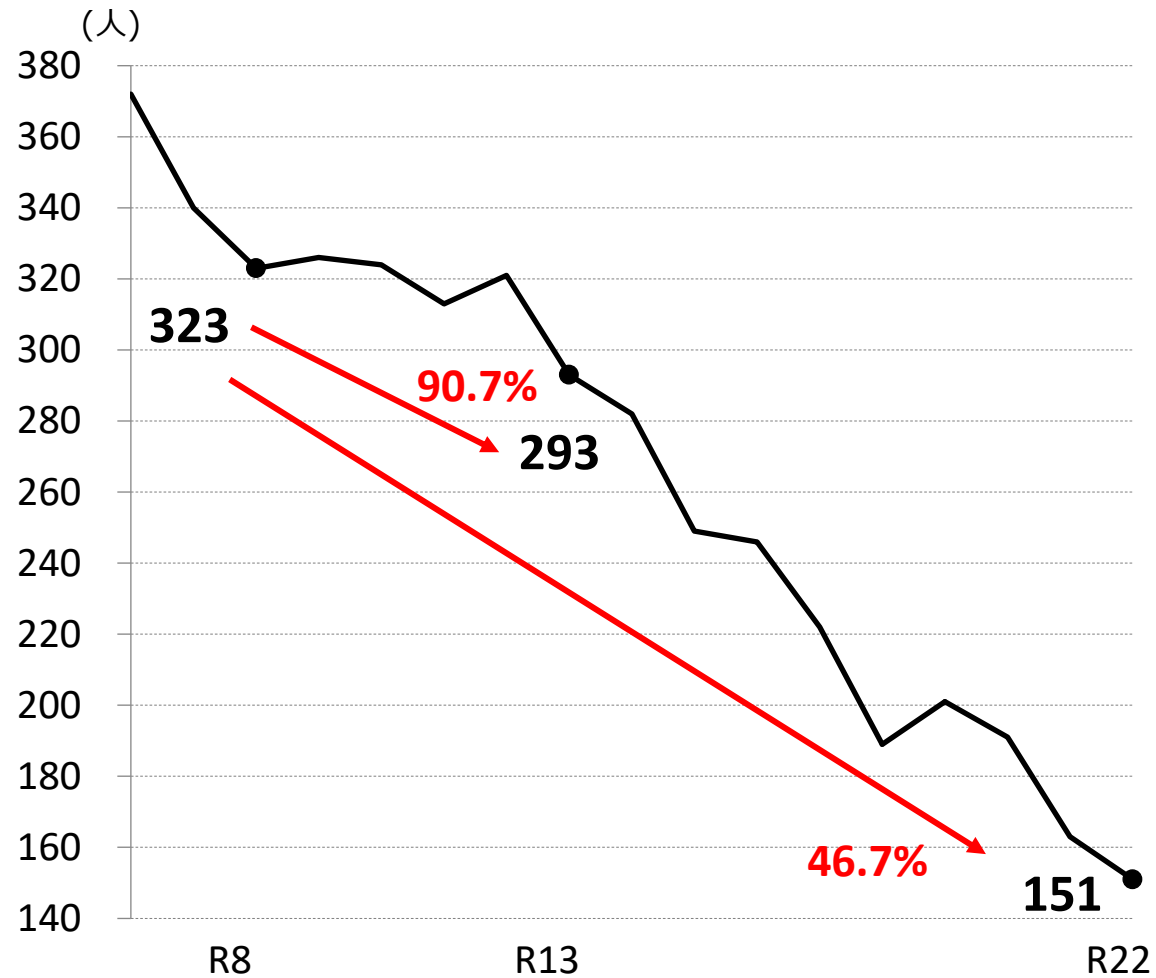
R8と比較して、R22(14年後)は、約277人減の見込

現在の高校数を維持

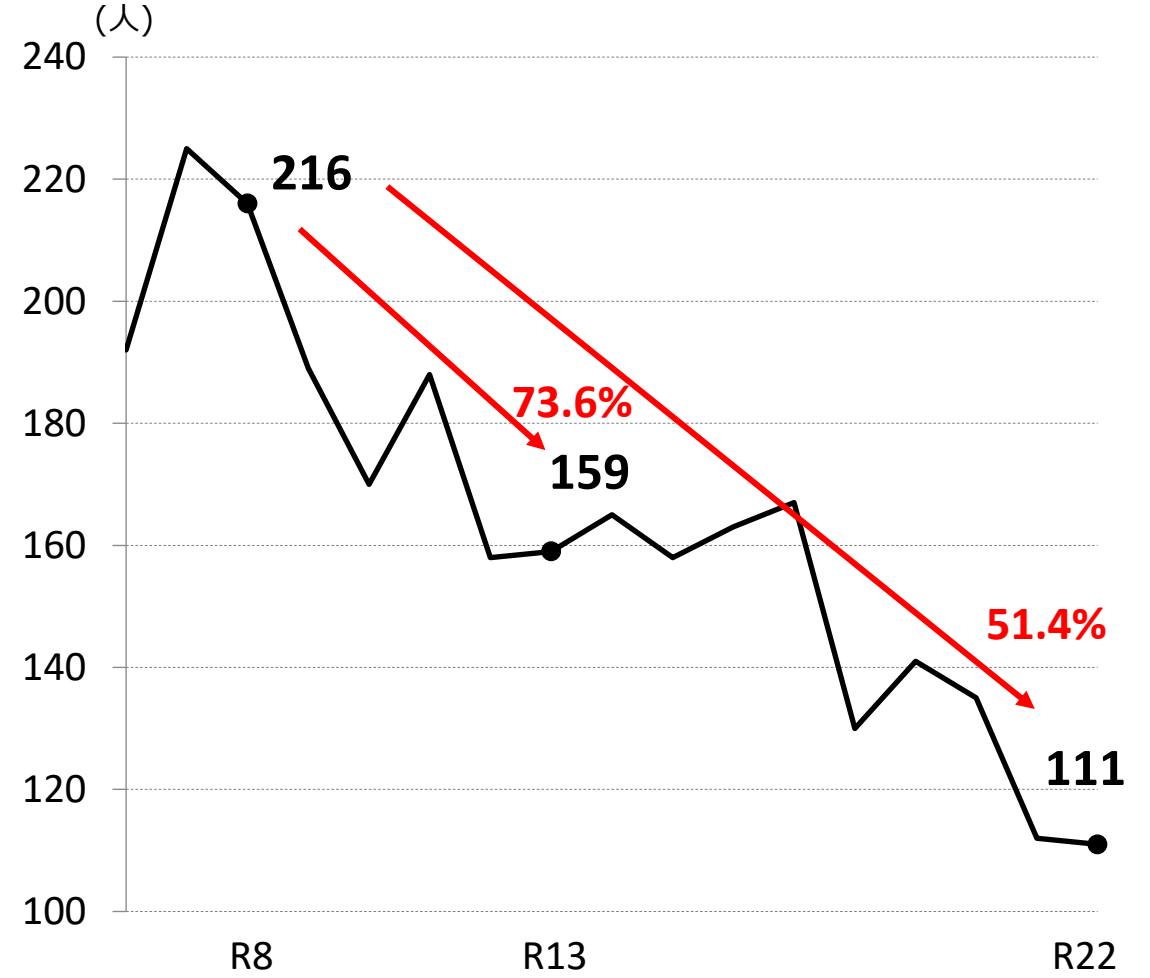


各高校の小規模化が進行

沼田市



利根郡



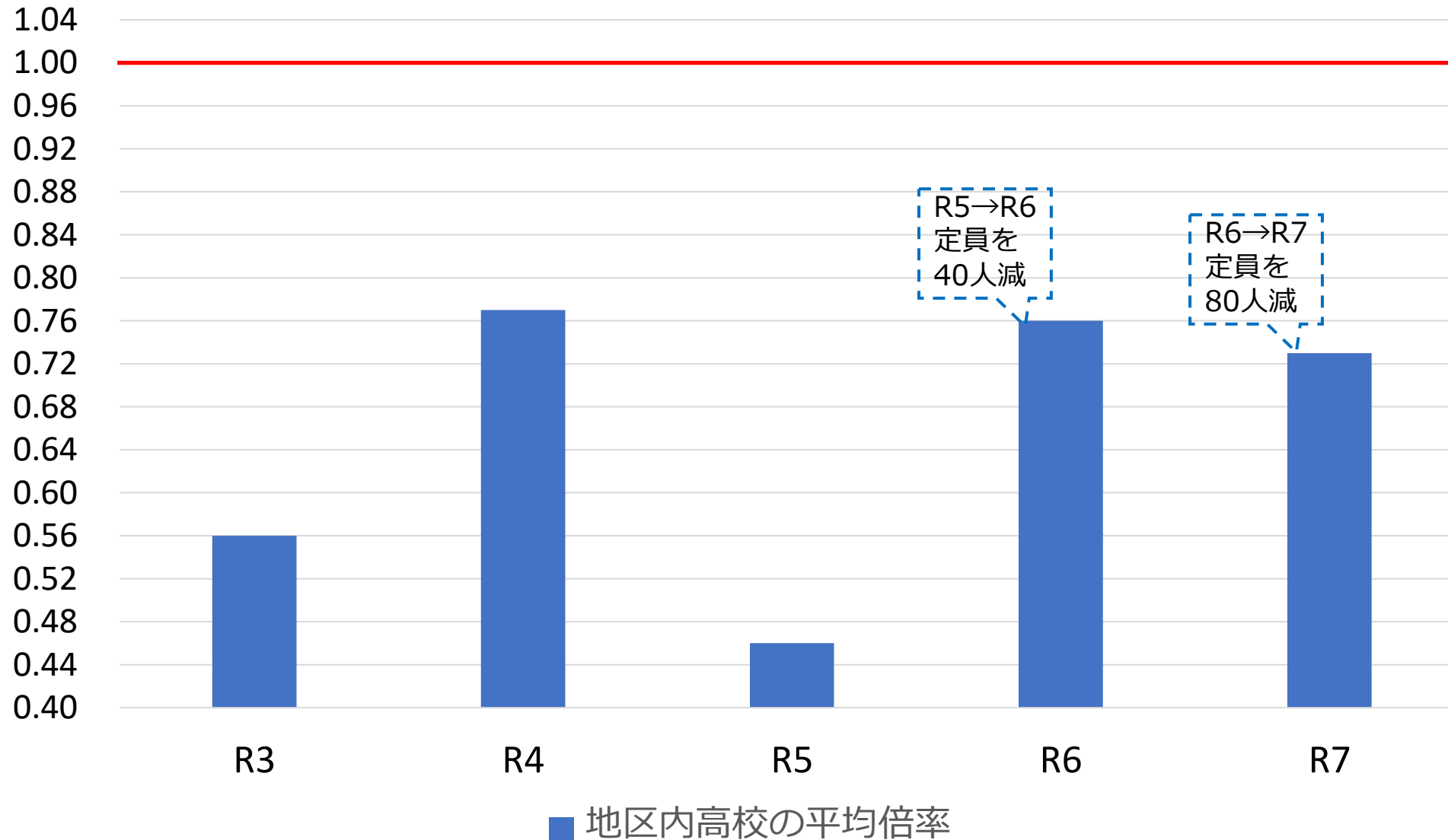
地区内の公立高校のプロフィール

課程：全→全日制、定→定時制、通→通信制

学校名	課程	R7.3 卒業者 数		進路状況(R7.3卒業生)				特徴
				大学	短大	専門 学校等	就職	
(新)沼田	全	沼田	144	112	1	12	9	2025年開校の 普通科(単位制)共学校 。文理探究コースを設置。 「進学重視型単位制」のカリキュラムにより豊富な選択科目を設置。 「メディアラーニングセンター」をはじめとした最新の学習環境。 (旧沼高1897年創立の普通科男子高校・沼女1921年創立の普通科女子高校)
		沼田 女子	116	86	3	21	4	
	定	沼田	13	4	1	1	3	男女共学。3年間で卒業可能な「三修制」。
尾瀬	全	36		12	0	11	11	1962年創立、1996年に武尊高校から校名変更し、 普通科と自然環境科を併置 。連携型中高一貫教育推進校。R6～コミュニティ・スクール。 「自然との共生」を図ることができる人づくりを目指し、地域に根差し、生徒が主体となった学習活動を展開。 自然環境科において、全国生徒募集を実施。
利根実業	全	115		11	4	46	53	1919年創立の 農業系と工業系の学科を併置 する専門高校。 農業系学科…生物生産科(2コース)、グリーン工科(2コース)、工業系学科…創生工学科(2コース)を設置。「正しく、明るく、和やかに」を校訓として、専門的な知識・技術を習得し、将来その道のスペシャリストとして社会に貢献できる人材を育てようと現在、地域貢献を積極的に展開中。
利根商業	全	127		36	3	49	38	1958年創立、 普通科と商業系学科を併置 。 2025年度から商業系学科は、総合ビジネス科・情報ビジネス科の2学科。 教育目標：建学の精神である「全人教育」に基づき、学校教育全体を通して知・徳・体を備えた人間の育成を目指す。全国生徒募集を実施。

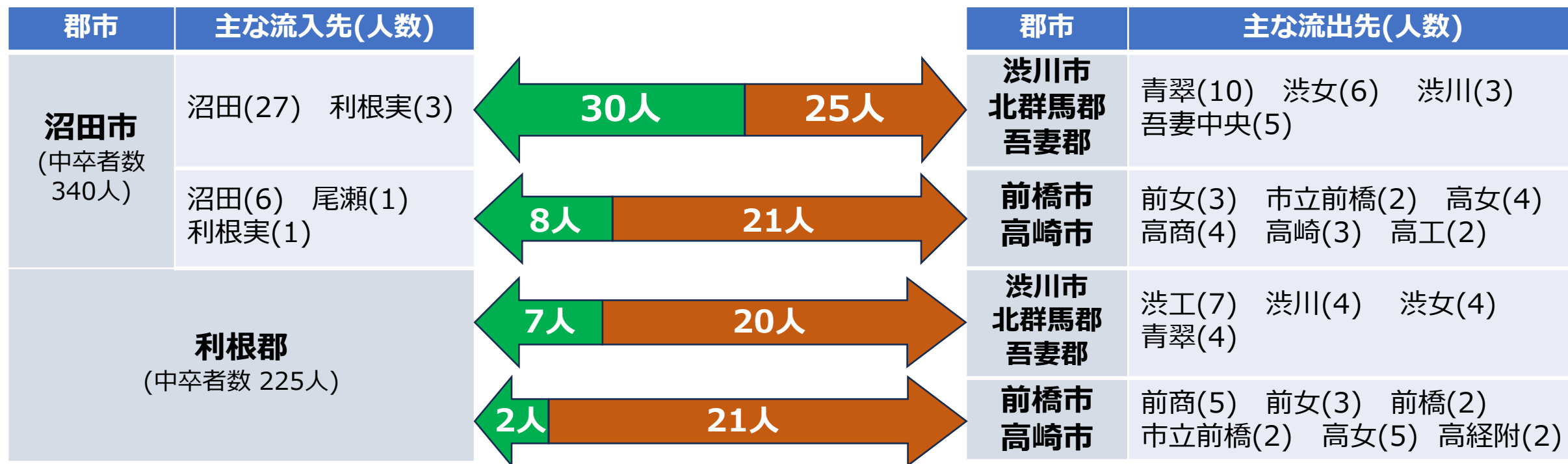
* 入試倍率・・・R3～R5は後期選抜

公立高校(全日制課程)の入試倍率*の推移

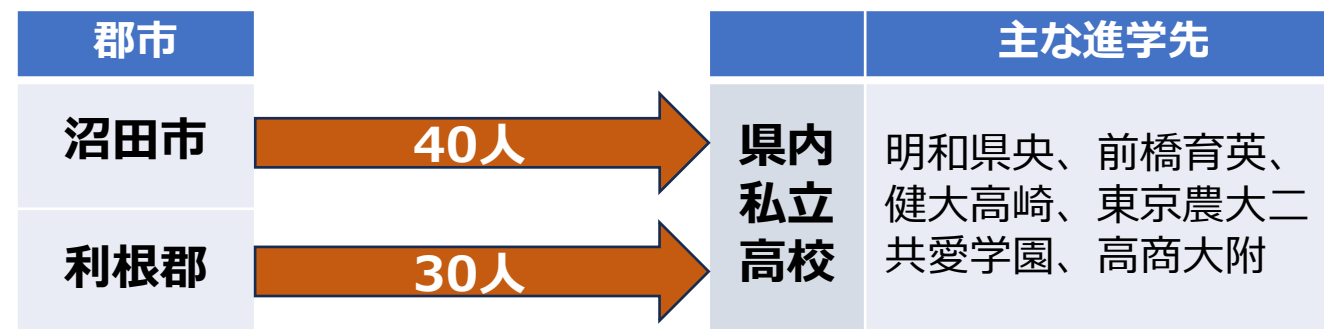


R 7 中学校卒業者の主な動き

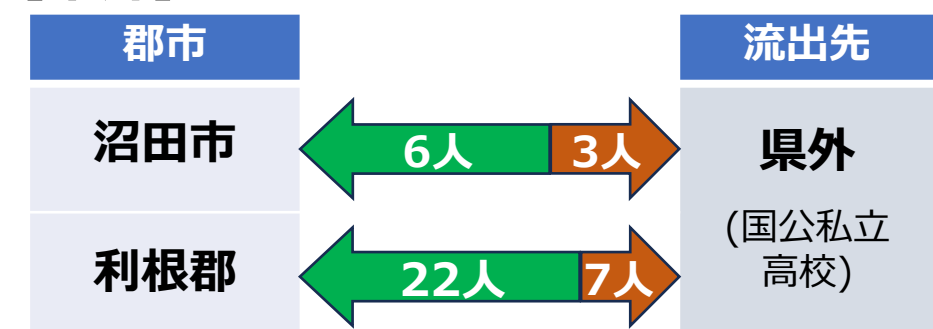
【県内他地区】



【県内私立高校】



【県外】

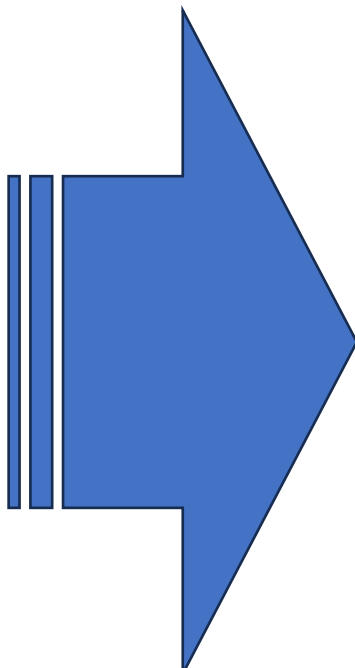


中学校卒業見込者数にともなうシミュレーション

中学校卒業見込者数

卒業年月	令和8年3月	令和13年3月	令和17年3月	令和22年3月
中学校卒業見込者数	539	452	389	262
増減(令和8年3月比)	—	-87	-150	-277

学級数及び学校数の見込み

高等学校名	学科等	令和8年		令和13年		令和22年
学校数		4校		4～2校		4～1校
沼田	普通科	5学級	13学級	13～9学級		9～5学級
尾瀬	普通科/自然環境科	2 〃 *1				
利根実業	農業系学科/工業系学科	3 〃				
利根商業	普通科/商業系学科	3 〃 *2				

*1 1学級32人

*2 県外出身者の別枠(24人)あり

中学校卒業見込者数にともなうシミュレーション

令和8年度
1 学年定員

全日制課程

4 校・13学級

沼田	普通科	5学級
尾瀬	普通科/ 自然環境科	2 " *1
利根実業	農業系学科/ 工業系学科	3 "
利根商業	普通科/ 商業系学科	3 " *2

平均学級数
3.3学級/1校

学校数
を
維持

令和22年度
シミュレーション

4 校・6.4学級

沼田	2.4学級
尾瀬	1.0 "
利根実業	1.5 "
利根商業	1.5 "

* 地区内の中学校
卒業見込者数の推移
R 8比 [48.6%] を基に
算出

- ・ 1 学年の
平均学級数
1.6学級/1校
- ・ すべての学校が
3学級以下に

* 1 1 学級32人
* 2 県外出身者の別枠(24人)あり

※ [第2期高校改革推進計画] 2 県立高校の再編整備 (1)適正規模

イ 学習の専門性の確保に加え、多様な部活動の保障や学校行事等の活力維持から、1 学年当たり 4 ～ 8 学級を基本とします。

生徒同士が学び合い、切磋琢磨できる機会の減少、多様な学び・充実した教育活動の実施が困難

1. 学校の活力への影響

【学校行事・部活動など】

- クラス対抗行事や体育大会の種目数の縮減など、活動の幅が限定される。
- 文化祭等の準備・運営が困難になり、学校行事等が縮小される。
- 部活動数が少なく、生徒は希望する活動ができない。
- 部員数が少なく、運動部のチーム編成や、音楽系部活動のパート編成等が難しい。



生徒の学びの機会の減少

2. 学習活動への影響

【学習活動】

- コース別や習熟度別などの編成がしにくく、多様な学習形態を取りにくい。
- 専門の教員をそろえ、全ての科目を開講することが難しい。
(高校では、総合的な探究の時間以外に10教科15科目が必修科目)
→生徒の科目選択が制限される

＜学校規模別の配置教諭数の例（理科）＞

教科	科目	学校規模(1学年当たりの学級数)			
		2 学級	4 学級	6 学級	8 学級
理科	科学と人間生活	2 人	4 人	5 ～ 6 人	6 人
	物理基礎				
	物理				
	化学基礎				
	化学				
	生物基礎				
	生物				
	地学基礎				
	地学				
	理科課題研究				



生徒の進路選択に影響
(進学に必要な受験科目が選択できない等)

栃木県

➤ 未来共創型専門高校（再編統合）

- ・ 複数の職業系専門学科を併置 → 学科横断的学習を推進する総合選択制

＜特徴＞

- ＊ 異なる学科の生徒が連携・協働して探究的に学ぶ活動を推進
- ＊ 他の専門学科の科目や発展的な普通科系科目の選択が可能

岡山県

➤ 県立岡山御津高校（総合学科）（学科改編等）

- ＊ 高校進学を目指しているが、様々な理由で登校できていない中学生のための「教育支援センター“My Place”」を開設（R6）
- ＊ 全日制高校への進学を目指している不登校傾向の中学生に対して、入学後、他校の通信制課程の科目を一部履修（全通併修）することができるフレックス制を導入（R7）

大分県

➤ 大分県立情報科学高校 （学科改編等）

- ・ 2023年度に新たな時代を担う人材育成を目指して学科改編
→ A I テクノロジー科、ビジネスソリューション科、デジタル創造科の3学科
＜特徴＞
＊ A I、I o T、半導体など高度先端分野を総合的に学ぶ（A I テクノロジー科）

兵庫県

➤ 兵庫県立北神戸総合高等学校 （再編統合）

- ・ 2025年、県立神戸北高校(普通科)と神戸甲北高校(総合学科)の発展的統合により開校
→ これからの時代に合わせた多彩な科目（系列）を設置した総合学科高校
＜系列＞宇宙・気象、D X、ひょうごからスタートアップ、スポーツ・アウトドアと防災、ダイバーシティ&インクルージョン、リベラルアーツ の6系列

京都府

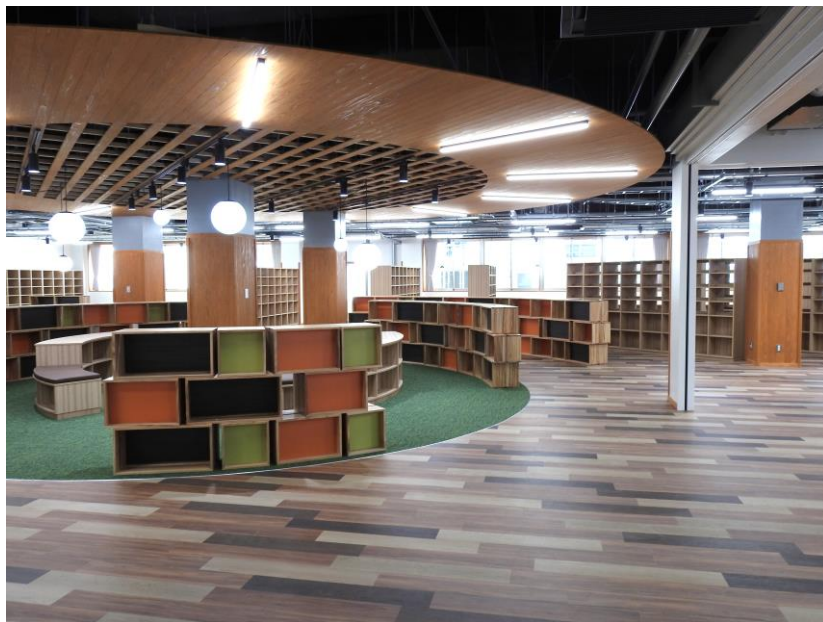
➤ 京都市立開建高等学校（学科改編等）

- ・ 2023年、京都市立塔南高校(普通科・教育みらい科設置)を再編して開校
→ルミノベーション科（その他普通教育を施す学科）を設置（1学科のみ）
- * 「自ら主体的に考え、探究し、多様な他所と協働することを楽しみ、未来を創造する人物」
の育成を目指し、対話・協働の学び、地域・社会での学び(探究活動)を展開。



➤ 沼田高等学校 （再編統合）

- ・ 沼田高校と沼田女子高校の統合により、
2025年4月に開校した普通科共学校
→進学重視型単位制、文理探究コースを設置
- * 幅広い選択科目・・・自分だけの時間割
- * メディアラーニングセンターをはじめとする最新の学習環境を整備



← メディアラーニングセンター

検討方法

- 座長は第三者（有識者等）で開催
- 開催の要望を頂くなど、**準備の整った地区から順次** 開催

検討内容

○地区の高校の未来像について

- ・生徒、地域の未来にとって、どのような高校が必要か
- ・各地区にふさわしい高校とは 等

ゼロベースで
地区関係者による
検討